

事業所名 瀬戸市のぞみ学園

公表日 2025年 3月 21日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		・定員は適切であるが、療育室が狭いと感じることはある。子どもがのびのび遊ぶことができる空間の使い方を考えている。 ・個々の姿に合わせて、場を分けたりする等、環境を整えている。 ・定員だと圧迫感はあるが過ごせている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		・適切であると思う。 ・職員の休憩時間がとれている。	・少人数の日の子どもの状態を見ると、1クラス7名程度が良いと思う。⇒活動に応じて、少人数で過ごす日を設定しています。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		・クラス内では、危険がないように物の置き場所を工夫している。 ・活動により、わかりやすく環境を変えたりしている。 ・外国籍の保護者には、貸借したポケットークや通訳の電話を使用。場合によっては翻訳アプリを使用。 ・肢体不自由児のクラスは床暖房がある等、配慮されている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・雨漏りがあったり、梅雨の時期は床が湿ったりする。その為、カーベットを敷いている。 ・活動に合わせた空間になるように見直しをしている。 ・毎日掃除や消毒は行っている。	・清潔ではあるが、劣化している部分(床や棚)があり、危険に感じることも時々ある。⇒令和7年度から、順次改修工事を実施する予定です。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所等を使用することが認められる環境になっているか。	○		・ねこの部屋は空き教室になっている為、部屋移動が必要になった時や、気分転換したい時の部屋として使う事が出来ている。 ・空き部屋がある事で、場を替えられたり、クールダウン出来る環境となっている。 ・空き部屋を使用し、少人数で遊ぶ時間を設け、安全に過ごせるようにしている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		・会議の中で、業務改善について話し合いの場を時々だが設けている。 ・会議や打ち合わせ等で決めている。 ・行事の後に反省会がある。	
	7	保護者等向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・アンケートを配布し、職員間で情報共有している。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・会議の議題に上がる内容の意見交換はできていると思う。 ・帰りの打ち合わせや事例検討会等を通して、意見交換をして、業務の見直しをしている。 ・毎日の療育の前で時間を設け、子どもの姿や対応に関して意見交換し、より良い支援に繋げることができている。 ・問題があれば、適宜ヒアリングや打ち合わせで話し合っている。	・療育の細かい事で職員の意見を把握したり、話し合い、改善という事は行われているのだろうか。⇒来年度から事例検討を月に1回行い、話し合いや改善に繋がります。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	・行っていない。	・今後も支援の質を上げていく努力をします。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・園内で研修を受ける機会を設けている。 ・外部研修に行ったり、事業所内研修がある。	・様々な研修の案内がある。平日、なかなか療育をぬける事が厳しい状況ですが、もっと参加してみたい。⇒できる限り職員の体制を整えて、研修参加できる機会を増やしていきます。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		・瀬戸市のホームページに公表しています。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○	1	・計画を作成する上で、保護者の意向を大切にしている。個々の子どもに対しては日々、アセスメントを行っている。 ・子どもの姿をこまめにアセスメントシートにまとめ、把握した上で計画を作成できるようにしている。	・自分に余裕がなく担当のお子さんしかしっかりと把握できていない。⇒クラス全員の事をしっかり見て姿を細かく把握できるようにする。また、担任だけでなく、園長や園長代理も園児の様子をみて話し合えるようにしていきます。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
適切な支援の提供	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> ・虐待についての話し合いが行われたり、支援方法について話し合いや反省会を行っている。 ・担任間で姿や支援を話し合い、計画に反映している。 ・もう一人の担任も目を通して。3重でチェックができています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス内では良い関わりと共通認識で行われていても、別のクラスでは適切ではないと思われる事もあると思う。 ・クラスに入らない第三者の立場の職員が把握して、学園全体で共通認識の下療育をしていかなければならないと思う。⇒園長や園長代理がクラスの様子を見に行く機会を増やし把握に努めます。また、見た人が声を掛けることが、基本ですが、直接声を掛け辛い場合は、園長や園長代理に報告し、学園全体で共通の認識に繋げていきます。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> ・書類にまとめて報告し、クラス職員みんなで統一した支援ができるようにする。 ・クラスの中で計画について、書面で知らせている。また、新しい支援方法はやって見せて知らせている。 ・作成した支援計画や専門スタッフからの助言を伝えたり見てもったりして、共有している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス打ち合わせの時間が減ったこともあり、計画を担当以外の職員が見る機会が減っている。⇒支援計画が作成出来次第、担任以外の短時間職員にも支援計画を見てもらう日を設定します。また、療育の中で日々行っていることを目標にしているため、日々の療育の中で話をしていきます。 ・クラス内打ち合わせが全体で時間を設けてできておらず、どこまで共有できているか曖昧になっていると感じる。⇒今後は、担任同士で支援計画の目標を振り返る時間を設定し、計画に沿った支援が出来ているか確認をします。また、園児への支援方法についてはその都度、声を掛け合って統一を図っていきます。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> ・状況に応じて記録をしている。効果があつた対応方法は職員間で共有している。 	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> ・家庭の姿に応じて適宜設定している。 	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> ・担任間で相談したり、リズム集会等他クラス合同のプログラムも考えている。 	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの様子、クラスの雰囲気からプログラムを考え、その時に興味がある物を取り入れている。 ・前年度、一昨年度と被らないように記録に残している。 ・日々玩具を入れ替えたり、主活動は日々変えている。 	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> ・社会性の面や個人で行う身辺自立の面で目標を設定している。 	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> ・担任間では引き続き行う事ができている。 ・毎日療育をするにあたって、注意する点や意識することを共有してから受け入れをするようにしている。また、そこで疑問として挙がったことに対しては、迅速に対応し、意見や対策を伝えられるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年1月から6時間開所になるため、短時間の職員とは打合せが出来なくなる。また、職員の打ち合わせの時間を持つ事や、質を保つ事が出来るかなど、業務方法を見直し改善しながら進めていかなければならないと思われる。⇒朝の打ち合わせの代わりに、一日のスケジュールなどメモしておき、短時間勤務の職員が把握できるようにしていきます。又、引き続き、全体の打ち合わせ記録も細かく記入できるようにしていきます。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○			<ul style="list-style-type: none"> ・同上。振り返りは必要な為、どこかで出来るよう、考えていきたい。正規の担任間での打ち合わせは、療育後にできるが、どちらかがバスに乗らなければならないことが多い為全員で行う日は少ない。 ・現在は当日中に、職員間での打ち合わせや、振り返りが可能だった。1月からはやってみないとわからないが、職員体制が取れるのか、打ち合わせの時間が確保できるのか、まだ不明な所もある。 ・振り返りや反省はできているが、時間が限られ、十分ではない。 ⇒帰りの反省は10分ほどは確保できているが、共有ノートなどの活用や、時間を見つけて伝達するなど、方法を工夫していきます。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハット、処置簿等、こまめに記録に残すようになった。改善方向に向かっている。 ・個別記録を作成し、支援の検証・改善に繋がっている。個人的には、全体的な日々の記録を残し、振り返りの材料とする。 ・子どもの姿に変化があった際、記録している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・記録に残す事を忘れる事もある。習慣づける⇒記録用紙を整え、忘れないようにしていきます。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と懇談し、児童発達支援計画の見直しを行っている。 	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		・相談支援専門員と情報を共有する等、連携している。	
	25	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		・相談支援専門員と情報を共有する等、連携している。 ・子どもへの関わり方法を嘱託医やボランティアの理容師に伝え、支援方法を確認している。 ・嘱託医訪問や地域の学校の研修受け入れ等、各機関と連携している。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		・保育園や幼稚園への移行を希望する園児には、隣接する公立保育園に交流に出かける等している。 ・移行希望児に関して、職員間で検討したり市役所担当課とも検討している。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		・就学にあたり、移行支援として引き継ぎ書を作成し、電話での対応も行っている。 ・医療的ケア児等、特別な配慮が必要な児に関して、小学校や学校教育課等、児に関わるすべての機関で打ち合わせを行っている。	
	28	地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	○		・六市一町親子通園施設の交流会に参加し、各施設毎の状況の情報共有を行ったり、研修に参加したりしています。 ・市内の研修に出向くことで、他の事業所の方と話す機会ができ、顔の見える関係作りに繋がりがやすい。	
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	○		・学園の療育の体制が整う場合はできる限りに研修に出向く機会を作っていく。 ・専門スタッフを招いて気になる姿等助言をいただいている。	
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	○		・担当部署が開催する協議会や会議等には、委員として積極的に参加しています。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。(31は、事業所のみ回答)				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		・コロナ流行以降回数は少なくなったが、隣接する公立保育園との交流の機会を設けている。 ・午前交流、午後交流等、保育園と連携を取って交流する機会を設けたり、合同で避難訓練を行ったりする機会を設けている。 ・コロナ禍で減ったが、徐々に復活しつつある。	・まずは隣接する公立保育園との交流が出来るとう良い。数年前に行っていた交流の良さ、内容等を現在の職員に具体的に伝える機会を持ちたい。 ・隣接する保育園との交流をもっと増やしていきたいが、相手方の負担も考えると難しい面がある。保育園の園庭に散歩へ行くのは保育園側の負担が少なく実施できると思う。他にも職員と検討して学園側でもっと工夫できることはないか考えていく。 →・過去の資料や経験年数の長い職員に話してもらい、共有する。職員同士の顔合わせの機会を作っていく。 ・のぞみ学園に来てもらう機会を増やす事をきっかけに子ども同士の交流に繋げる。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		・個々の注意すべき病気については、保護者と密に情報交換をしたり、書面に起こし職員間で情報共有を行っている。 ・登降園時や親子通園で子どもの成長してる姿を共有したり、連絡ノートに書かれている内容から家での様子を把握し、情報共有をしている。 ・日々の連絡帳や、送迎時のコミュニケーションを大切にしている。また、家庭と足並みを揃えた支援ができるよう、家での様子は意識して聞くようにしている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		・保護者の学びの機会として、療育講演会を開催したり、同じ児童発達支援センターの発達支援室が主催するペアレント・プログラムの案内を行ったりしています。 ・外部からの研修もチラシ等を配布し、保護者に情報提供を行っています。	・家族支援が必要な保護者には、手紙だけでなく、詳細の声掛け等、個別の対応を必要に応じて行うとう良い。
保護者への説明責任等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		・入園の説明をする際に、保護者にお伝えしています。また、変更がある時にも保護者に周知しています。 ・大きな変更がある際は保護者説明会を設けている。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
保護者への説明責任等	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		・アセスメントシートを記入して頂き、それに沿って計画を作っている。	・保護者の意向を、日々の話し合いや書面で思いを書いてもらい確認をしている。しかし、子どもの意思の尊重に関しては、どのように行うとよいのか迷う所がある。 ⇒アセスメントの様式を変更しました。子どもの意向や立場になって考えます。また、子どもの好きな事や得意な事を反映した支援計画を作成していきます。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		・懇談時に丁寧に説明を行い、同意を得ている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		・親子通園で、保護者に対しては悩みや困り事はないか確認するようにしている。また、保護者が何を求めているのかを自分なりに読み取り、個々に合わせて助言や支援を行うようにしている。また、必要に応じて相談に乗ったり、共感したりして、信頼して預けて頂けるように意識しながら関わるようにしている。 ・個人懇談だけでなく、親子通園や連絡帳や日々の受け入れ時等で保護者とコミュニケーションをとっている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		・12月の個人懇談で聞き取りをし、保護者会に参加されていても「だれがどの方なのかかわからない」といった声もあった。仲を深めたいと思っている方には、保護者同士を繋ぐアプローチをしていくとよいと思う。	・きょうだい同士の交流の機会は設けられていない。その要望がどのくらいあるのか、また、どのような方法なら出来るのかを考えていくと良いか。 ⇒年間行事の中で、きょうだい児が参加できる機会を設けて行く予定です。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		・保護者からの相談についてすぐに報告し、書類作成をして周知する事を自分自身気を付けている。 ・園内で検討し、すぐに応えられる事は応えている。検討に時間を要する時は、回答の期限を伝え、その期限までに応えている。また、相談記録簿に記入している。 ・相談記録簿を作成し、職員間で周知している。帰りの会等で担任間にはなるべくその日のうちに知らせている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		・クラスだよりや学園だよりを発行している。	・園だより、クラスだよりは定期的に発行している。マチコミメールは活用しているが、SNSの活用はない。そのため、今後の課題である。 ・紙媒体の通信は発行しているが、日々の業務に追われて、HPやSNSなどの活用が十分に出来るまで、至っていない。 ・保護者にとっては情報がすぐに入り易いHPやSNSの方が需要は年々高くなっていると思う。 ⇒SNSの活用を考えて行く。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		・個人情報が入った書類は鍵付きの棚に保管している。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		・子どもの行動をよく観察して、子どもの意思を読み取るようにしている。その際、親子間で思いのずれ違いが見られる時もある為、丁寧に両者の思いを汲み取りながら、子どもの思いを伝えたり、どう接すると良いかアドバイスをしたりしている。 ・適宜懇談を設けたりして、個別に対応している。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		・関係機関には、のぞみ展の案内を送り、来て貰っている。	・コロナ過以降はのぞみ展への招待は地域住民にはされていない。⇒今後は広げて行っても良いのではないかな。 ・愛厚ホームとは、今年度より交流の機会を設けたが、参加方法は検討が必要と思われる。⇒愛厚ホームには少人数で出かけていき、先方の負担にならないようにする。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		・避難訓練だけではなく、緊急時の対応訓練も行っている。	
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		・業務継続計画(BCP)は作成し、毎月避難訓練を実施しています。 ・年度初めに職員への説明をおこなっています。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		・看護師と連携をし、子どもの状況を把握している。てんかん発作には様々なタイプがある為、複数の職員が観察を行い、日々と違う行動や姿になる場合は注意している。また、保護者とも密に情報を共有している。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		・アレルギー給食を申し込まれる際に、医師の指示書を提出していただくよう保護者に依頼し、主治医の指示の下アレルギー給食の提供を実施しています。 ・栄養士や担任を中心に保護者と面談をしながら対応している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で、支援が行われているか。	○			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との関係が図れるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		・非常時の身体拘束等、別途書類を作成して説明している。	・外国人の方はより周知の仕方には配慮しなければならないと思う。マチコミメールの案内は日本語で書かれている為、簡潔で良いのでローマ字表記も記載するか、今はAI機能も高い為、写真翻訳もある為、翻訳し易い文章も記載する等、配慮が必要か。⇒・外国籍の保護者の方には翻訳しやすい様、簡潔で分かりやすい文章を心掛ける。 ・大事な伝達は簡単な母国の言葉で伝えるようにします。ショートメールを活用して伝えます。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		・ヒヤリハットな事例が起きた時には、打ち合わせで報告し合うと共に、記録を残すようにしています。ヒヤリハットの記録は職員で回覧し、情報共有をしています。 ・報告書を書いたり見たりすることで、自分の意識がかなり変わる。共有の大切さを実感した。 ・些細なことでも、危険なことがあった時には記録に残し、職員間で共有することで再発の防止に努めることができる。	・共有はしているが、今後さらに全職員で共有して、未然に事故や怪我を防げるような様式や検討方法を考えていくと良い。⇒・毎月テーマを決めて、ヒヤリハットを挙げてもらい検討します。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		・外部講師を招き、虐待についての研修を受けた。	・研修の機会は大切であるが、行事や通常の療育に支障をきたさない方法で行えると良い。⇒・療育や行事に支障がないように研修を行います。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		・今年度、職員間で話し合いを深め、身体拘束や虐待に対する知識が不十分だったことを痛感した。常に職員間で話し合いができる職場づくりを行っている。 ・職員会議で決定して行われている。	